

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501415		
法人名	有限会社 ケアワークス		
事業所名	グループホーム はまなすの家 1階		
所在地	札幌市豊平区美園1条1丁目5-17		
自己評価作成日	令和4年12月20日	評価結果市町村受理日	令和5年1月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0170501415-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0170501415-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

穏やかで安心できる環境の中で住み続けられるホームを目指し20年が過ぎました。入居者様と家族連携を密に、地域の方々の協力を得て運営させていただいています。公園の掃除、ラジオ体操は欠かさず参加し、町内会、地域との接触を大切にしています。ホーム内体制は、ご家族様の希望に沿い、看取り迄可能とし、健康強化、栄養状況のチェックに力を入れています。職員研修はリモート研修に参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム はまなすの家」は、地下鉄駅から徒歩15分ほどの住宅地に立地している2階建て2ユニットの事業所である。近隣にはドラッグストアやスーパーマーケット、公園などもあり生活の利便性が高い。室内は広々としたリビングと食堂を中心に居室が配置された造りで、集中暖房と加湿器で温湿度を調整して利用者が健康で居心地よく過ごせるように生活環境を整えている。季節に応じて利用者と一緒に制作した作品を飾るなど、家庭的な温もりが感じられる。共用空間や居室の清掃も行き届いており清潔感のある事業所である。食事面では、一人ひとりの利用者に食後の感想や好みなどを確認し、職員と栄養士による細やかな栄養管理が行われている。管理者をはじめ看護師資格のある職員も多く、医療面での支援も充実しており利用者や家族の安心感につながっている。看取り対応にも真摯に取り組んでおり、終の棲家として穏やかに過ごせるグループホームである。ケアマネジメントの面では、センター方式シートを定期的に更新しながら各利用者の思いや意向を汲み取り、全職員で情報を共有しながらその人らしい生活が継続できるように支援している。感染症流行の中でも、利用者と一緒に町内の草むしりや公園清掃、ラジオ体操など可能な限り参加して地域交流を継続するなど、地域に根差した事業所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時、スタッフ全員で理念を唱和する事によって個々人の理解を深め、業務に反映できる様努めています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた「法人理念」と「ホーム理念」を作成し、玄関や事務所に掲示している。法人理念は毎朝の申し送りで唱和し、ホーム理念は新しい職員が入った時など、全職員で年数回確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、活動に参加しています。公園清掃、36号線花植、ラジオ体操、町内会の方も事業所の行事に参加協力いただいています。(敬老会、避難訓練)今年はコロナのため中止。	町内の草むしりや公園清掃など、感染症流行の中でも可能な限り利用者と一緒に地域活動に参加している。以前はコーラスのボランティアが来訪したり、近所の方が犬を連れて来たり子供が遊びに来ることもあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練時、利用者の方と触れ合っていたき理解を広げています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、入居者様の状況やサービス内容を報告しています。今年は、4月21日以後スタッフのみ集まり書面で報告しています。コロナウイルス対策にて。	感染症流行のため書面会議を開催し、利用者状況や行事、新型コロナウイルス感染症対策などを記載し、全家族に議事録を送っている。今後はテーマを設定して事前に質問や意見を聞き取ったり、研修内容の資料なども添付したいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月初めに入居状況を区役所にFAXしています。地域包括支援センターの方と密に連携を取っています。	地域包括支援センターから入居者の相談を受けたり、書類提出や家族からの相談を受けてケアマネジャーが役所に出かけることもある。普段から電話などで連絡を取り、いつでも相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回高齢者虐待防止推進研修会に出席し拘束をしないケアに取り組んでいる。ベッド柵を使用する場合は、スタッフ、ケアマネと何回も話し合いをし規定に沿った手続きを取っています。身体拘束委員会を設置しています。	マニュアルを整備して身体拘束委員会や勉強会を開催しているが、議事録や勉強会資料の整備が不十分である。家族の同意を得て、安全面に配慮してベッド柵を使用している利用者もいる。玄関とユニットの鍵は日中も施錠しているが、状況を見ながら職員が適切に対応している。議事録などの職員の確認状況がわかるように、書式を整備する意向である。	身体拘束委員会の議事録や勉強会の資料をわかりやすく整備するよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待委員会を設置し、研修計画に組み学習しています。お互いにアンテナを張り注意見過ごさないよう朝のミーティングで話し合っています。		

グループホーム はまなすの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在全入居者様にキーパーソンがいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分な説明を行い、不安や疑問に答えて、理解・納得いただくよう対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に入居者、家族の意見を聞き検討し運営に反映できるよう努力しています。	家族の来訪時や電話で意見や要望を聞き取り、家族とのやり取り内容も記入して個別ファイルに綴じている。行事の写真などを入れた「はまなす便り」を4か月ごとに作成して家族に送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やカンファレンス、申し送りなどで職員の意見を聞いています。話し合いを重ね運営に反映させています。	入居者担当者会議で、利用者に対する適切な対応について意見や提案が出されることが多く、全職員で検討しながら日々のケアに活かしている。職員は各種委員会やお便り、壁面装飾などの役割を担当している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は常に職員とコミュニケーションを図り定期的面談を行っています。評価表により個人の能力の開発の援助を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は評価表や面接により能力の把握をし、研修や資格取得の援助を代表者と行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は日本認知症グループホーム協会の理事をしています。全国大会の参加、発表、研修にてサービスの向上に取り組んでいます。(今年はコロナ対策にて中止でした)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人に面会し、家族の方もホーム内を見学され、連携を取り安心して信頼関係を築くよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず、ご家族の不安を理解し、できるだけ今迄の状況を伝えてもらい、信頼関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関からの情報をもとに、今必要とする支援をしっかりと把握し、提供できるように進めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であり、敬意をもって接するという考えを職員全体で共有しています。暮らしの中で支え合う関係づくりを目指しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族と情報を共有し、ご本人との絆に十分な理解を持ち大切にケアをしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、連絡・情報は電話・書面にて取り合っています。面会は玄関、ホール側とドア越し、マスクをかけています。詰所の中で電話で会話されています。床屋は玄関ホールで行っています。	親族の方から電話が来たり、趣味仲間や檀家のお寺からハガキやお便りが届く利用者もいる。感染症流行のため馴染みの場所に出かける機会が少なかったが、収束状況を見ながら外出する機会を増やしていきたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係はミーティングで話し合い、席変えて支援することもあります。		

グループホーム はまなすの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一度ホームを離れた方から手紙を頂いたり、来施があったり、繋がりがありません。(この1年コロナ禍ではありません)		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で、本人の希望や思いをスタッフが日常生活の中で受け入れ、レクリエーションの中心に行っている。	会話や表情、仕草などから思いや意向を把握している。6か月ごとにセンター方式シートを更新し、趣味や嗜好などの情報も可能な限り具体的に記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からご本人、ご家族から充分お話を聞き、ケアプランを立てています。新しい情報が入ることもあり、職員間共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子、観察を深めコミュニケーションで現状を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝ケアプランに沿った申し送りをしています。問題点はカンファレンスし、ケアプランの見直しをしています。	居室担当職員が実施したモニタリング表を基に全職員で話し合い、3か月ごとにケアマネジャーが介護計画を作成している。日々の記録は短期目標を記載したタブレット端末に入力しているが、変化などを記録に残すまでには至っていない。	サービス内容に沿って変化や課題を記録に残し、介護計画の評価や更新に活かすよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、ケアプラン個人表を活用し、情報の共有を申し送りに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療ニーズの高くなってきた利用者様には家族の意向を踏まえた対応をしています。受診の付添、援助、連携を密に行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会との交流を生活の一部とし、豊かな生活環境の実施に取り組んでいます。(盆踊り、新年会、ラジオ体操)ラジオ体操以外はコロナ禍で中止。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、歯科は訪問診療を受けています。他の専門医療は訪問医の指示があります。	利用者全員が協力医療機関の往診を受けている。専門医などの外部受診は事業所に対応し、主治医と連携しながら適切な医療支援につなげている。受診記録は個別に記録し、全職員で情報を共有している。	

グループホーム はまなすの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は事業所に1・2階6名います。変化を的確に把握し、受診への対応、看護を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は看護添書を提供し、治療の経過を適宜、家族へ報告し連携に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護度の上昇や外部受診時を機会とし状況の変化をご家族に伝え重度化の方針を話し合っている。	利用開始時に「重度化した場合における指針」に沿って事業所の方針を説明し、希望に応じて看取りを行っていることも伝えている。看護資格のある職員も多く、適切な対応ができる体制が整えられている。現在も数名の看取り対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変対応マニュアルの学習をし、看護スタッフの指導を受け実践力を養っております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っています。(今年はコロナ禍で中止)非常通報装置、町内会の方にも通報されます。	昨年10月に日中の地震と火災を想定した自主訓練を実施し、一時避難場所まで避難している。職員の救命講習も看護師を中心に学んでいる。ケア別の個別対応を話し合い、議事録をマニュアルなどに綴り定期的に確認する意向である。	感染症の収束状況を見ながら、年2回は昼夜を想定した避難訓練を実施するよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りはフロアで行い、個人名でなく何号室としています。誘導や入浴も小声でプライバシーに配慮しています。	利用者の呼びかけは概ね苗字に「さん」づけとし、言葉かけなどで気付いた点を申し送り時に注意している。部屋番号で申し送りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーション時に無理強いせず、自然に参加できるようにしている。朝は紅茶、15時はコーヒーと分けています。嚥下体操、カルタも同様です。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方は、その日の体調にあった過ごし方をすすめています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の持参の服の中から、その日の天候、温度を考え選んでいます。		

グループホーム はまなすの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ソース、マヨネーズ、味好みに合わせています。テーブル拭き、下膳、お盆拭きは重度化に伴い困難になっています。	食事は法人内の厨房から提供される。栄養士が、献立や利用者の体調に合わせた食事が提供できているかをチェックしている。秋分の日には利用者がおはぎ作りを手伝っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士さんが月1回訪問して下さり、栄養ケア、指導、課題への対応があります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内をきれいにして頂き、自力で出来ない部分は手伝っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄時間習慣を把握し、トイレでの排泄の援助をしています。	全員の排泄状況をタブレット端末に記録し、誘導や介助を行っている。誘導時の声かけは羞恥心に配慮している。立位が可能な利用者はなるべくトイレで排泄できるように支援し、難しい場合はベッド上で排泄用品の交換を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、毎日の排尿チェック、排便を観察し、腹部、肛門マッサージの施行、緩下剤使用対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタルチェックを行っています。入浴剤は気分転換のため変えています。	月曜から金曜の間で概ね午後の時間帯で各利用者が週2回程度入浴している。入浴を嫌がる場合は、誘う職員を変えたり、声かけの工夫をしている。入浴剤を使用したり、好みの湯加減に調整し気持ちよく入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は適宜フロアのソファ等で休息できる様支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は個人ファイルに入れてあります。即確認、変わった時に対応できる様になっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今年はコロナ禍のため散歩に出ることが少なかったです。おやつはホームでももちを作ったり、又、クッキーにしたりしています。		

グループホーム はまなすの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は公園に行っています。(今年はコロナ禍にていつもの年の半分位です)買い物は本人からの要求を代行しています。	日常的に公園に散歩に出かけており、車いすの利用者も一緒に行っている。少数であるがスーパーマーケットなどに職員と買い物に行く利用者もいる。感染症流行前は花見などの外出行事が行えていた。収束後に外出行事を再開したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方は今年いらっしゃいません。職員が付き添って買い物しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に受けられるようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広々として、開放感があり全居室さんと作った季節感のある壁飾りをしています。	広い共用空間を中心に居室が配置されている。集中暖房と加湿器で温度、湿度を調整している。壁に季節の装飾などを飾り、賑やかな雰囲気を作っている。塗り絵やパズル、かるたなどを用意し、利用者が好みの遊びをできるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を置き、その時々に応じた過ごし方を工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の方々と入居時相談しベッドの位置、家具等の位置を決めています。	居室にはあらかじめベッドとカーテンが備え付けられている。入口に暖簾と表札を設置している。個々にテレビや仏壇、タンスなど、馴染みの家具が持ち込まれ、家族の写真や人形を飾っている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングは広々として、開放感があり全居室さんと作った季節感のある壁飾りをしています。障害となるものを少なくし、テーブルの間隔、入居さんの状況に配慮しています。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501415		
法人名	有限会社 ケアワークス		
事業所名	グループホーム はまなすの家 2階		
所在地	札幌市豊平区美園1条1丁目5-17		
自己評価作成日	令和4年12月20日	評価結果市町村受理日	令和5年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

穏やかで安心できる環境の中で住み続けられるホームを目指し20年が過ぎました。入居者様と家族連携を密に、地域の方々の協力を得て運営させていただいています。公園の掃除、ラジオ体操は欠かさず参加し、町内会、地域との接触を大切にしています。ホーム内体制は、ご家族様の希望に沿い、看取り迄可能とし、健康強化、栄養状況のチェックに力を入れています。職員研修はリモート研修に参加しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvgysoCd=0170501415-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvgysoCd=0170501415-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和5年1月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全員毎朝申し送り時、スタッフ全員で理念を唱和し理解を深め、業務に活用している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、活動に参加しています。公園清掃、ラジオ体操、町内会の方も事業所の行事に参加協力いただいています。(避難訓練)今年はコロナのため中止。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の行事に参加し、沿道の草取り、花植えに参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回催し、入居者様の状況を家族に郵送している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月初めにFAXにて入居状況を区役所に報告する。地域包括支援センターは2ヶ月に1回の運営推進会議に出席していただいています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッド柵使用時は家族へ説明同意を得ています。玄関の施錠は二中もしてユニットの入り口も施錠しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待委員会を設置し、研修計画を組み学習しています。朝のミーティングで話し合っています。		

グループホーム はまなすの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在全入居者様にキーパーソンがいます。家族からの相談に対応できるように備えています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分な説明を行い、不安や疑問に答えて、理解・納得いただけるようにしています。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の意見を聞き内容を話し合い、運営推進会議でも意見を受け付けています。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎回のミーティングや毎月の全体会議(コロナ問題にて中止の月もありました)運営に反映しています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居様の変化に伴い、柔軟な対応が出来るよう話し合いや勤務の調整に努めている。管理者は職員とコミュニケーションを取りながら業務に携わっています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は計画的に実践者研修や外部の研修や講習会に参加している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は日本認知症グループホーム協会に加盟しており研修情報を交換している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人に面会に行き、家族の方もホーム内を見学され、連携を取り安心して信頼関係を築くよう努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めているものを理解し事業所としてどのような対応が出来るか話し合いをし支援できるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時に本人、ご家族にしっかりアセスメント必要とされている支援を見極め出来ることは直ぐ実行し、地域包括支援センターと連携しながら環形作りにも努めています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居様は人生の先輩であり、敬意をもって接する考えを職員皆で共有しており、家族の一員として暮らしを共にするよう援助しています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族と情報を共有し、本人との関係を重視し共に支え合う事を目指しています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナ禍のため、連絡・情報は電話にて取り合っています。面会は玄関、ホール側とドア越し、マスクをかけています。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係はミーティングで話し合い、席を変えて支援することもあります。			

グループホーム はまなすの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合は、家族・行政との連絡を密にしています。その後の対応にも密に関係を保っています。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で、本人の希望や思いをスタッフが日常生活の中で理解しプランに反映させていきます。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から情報を聞いて職員同士話し合いを通じて共有しています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を把握して観察項目を分かりやすくすることにより記録しています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝ケアプランに基づいて話し合い、必要な時にはプランの見直しをしています。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、ケアプラン個人表を活用し、情報の共有を申し送りに活かしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に方と密にコミュニケーションをとり医療連携を密にしています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の催しものに参加し取り組んでいる。盆踊り、子供みこし(今年はコロナ禍で中止)			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を中心に専門医の受診も支援し、適切な医療を受けられるようにしています。			

グループホーム はまなすの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格者在籍しています。細かな観察をし、訪問医に連らくし受診に付添をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は看護添書により情報提供し、治療の経過、面談にも参加し家族との連携を密に保っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時、事業所として出来ることを明確にし家族の意向を尊重しながら方向性を保っていきます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルの学習をし、看護スタッフの指導を受け実践力を養っております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っています。消火器の使用方法も訓練しています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送り等の時は部屋番号で表しプライバシーに配慮しています。トイレ誘導時は小声でプライバシーに配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、飲み物、レクの時はパズル、ぬり絵、カルタ、トランプを自分で参加を決めていただく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今年はコロナ禍で外へ出る機会がなくなっていますが、1人ひとりのペースで過ごせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所の鏡を利用し、身だしなみを整えるよう声かけ支援しています。理髪は意向を聞いてカットをしています。		

グループホーム はまなすの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食のメニューをスタッフと一部の利用者さんが食事の前に読み上げています。テーブル拭き下膳は重度化で困難になっています。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態は普通食、きざみ食、ムース食としています。体調に合わせて栄養剤食品(ラコール、エンシュア)を臨時飲用しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、義歯洗浄を声かけて頂き、自力で出来ない部分は支援しています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄の時間を把握して早めのトイレ誘導をしています。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、申し送りにて排便回数、何日目をしっかり把握するようにしています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタルチェックを行っています。入浴剤は気分転換のため変えています。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体操・唄会等ご本人の生活リズムが整うようにし、ソファー等で出来るよう支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は個人ファイルに入れてあります。与薬時には2人以上のスタッフで名前、日付を確認し飲み込むまで見守りをしています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事前のテーブルを一緒に拭いて頂いたり洗濯物を干す、たたむなども一緒に行っています。			

グループホーム はまなすの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年はコロナ禍で各行事の中止が感染防止のため外出は受診等制限をしています。町内行事、お花見は中止しています。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本年は同行での買物はせず、代行で職員が行うかご家族にお願い依頼しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方が携帯電話を持つことはできませんが、ホールの電話は使っていただいています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広々として、開放感があり壁紙には季節感を出しています。玄関には花を飾っています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る席、気の合った入居者同士の工夫をしています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の方と相談し家具の配置、ベッドの位置を工夫しています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室はリビングに面して安全に配慮しています。車椅子の移動にも支障のない広さを確保しています。			



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム はまなすの家

作成日：令和 5年 1月 27日

市町村受理日：令和 5年 1月 30日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束委員会と勉強の議事録の整備が不十分であった。	身体拘束委員会、虐待防止委員会は3ヶ月に1回記録をしっかりと共有する。勉強会は月1回とし職員が確認する。	身体拘束委員会、虐待防止委員会は、2月、5月、8月、11月の10日実施と決めました。	6ヶ月
2	26	サービス内容の記録が不十分であった。	タブレットに変わってから個人差があり、具体的計画、内容の勉強ができていなかった。	評価日の1月20日以後、毎日勉強会と話し合いをし、解決に向かっていきます。	10日間
3	35	感染症の収束状況を見ながら、年2回昼間・夜間を想定した避難訓練が1部しか出来なかった。	会社の業務予定表を活用し、避難訓練に対する意識をしっかりと持つ。	5月、10月(年2回)会社の行事予定表に乗せ、昼・夜の避難訓練を実施し、議事録を作成しマニュアル化する。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。